

常光寺々報

2022.4

永代経法要

前住職百ヶ日法要

四月二十九日（金）

朝十時〜十二時

昼一時半〜三時半

本願寺 勸学寮頭

講師 徳永 道雄 先生

永代経法要と合わせて、前住職の百ヶ日法要をお勤めさせていただきます。

お香典は拝辞させていただきます。空気循環のため、本堂は扉を開けて、換気をしています。

お経本とお念珠をお持ちください。マスクの着用もお願いいたします。お斎（昼食）の用意はございません。

徳永先生とは、前住職が得度させていただいた時に一緒にして以来のご縁で、前住職の僧侶としての芯を作っていたのは、故稲城先生と徳永先生、お二人のご縁であるかと思えます。

前住職が法座を始めてから毎年のようにご出講いただいております。ここ最近はコロナもあり、また先生も八十歳になられ、ご出講頂くことが叶いませんでしたが、百ヶ日法要に、前住職が最もお話を聞かせていただきたいと願っていた先生をお迎えすることが出来ました。

いつまでもある御縁ではありません。永代に渡って法が伝わるよう、どうぞ、皆さまもこの度のご縁を大切にされてお参り、ご聴聞いただきますようご案内申し上げます。

前住職百ヶ日法要

生死の苦海ほとりなし

ひさしくしづめるわれらをば

弥陀弘誓のふねのみぞ

のせてかならずわたしける

この度の永代経法要は上記にありますが通り、前住職の百ヶ日法要を合わせてお勤めさせていただきます。

昭和四十四年に常光寺に入寺されていただけで以来五十余年、入寺して間もない頃は、長崎の当たり前と、横須賀の当たり前の違いに戸惑い、声を荒げたこともあったと聞いておりますが、様々なおそだてを頂き、住職の任を務めあげることができたのだと思います。ご門徒の皆様には大変お世話になりました。どうぞ、お焼香いただきましたたく、ご案内申し上げます。

一九九九年十月の前住職の原稿が出てきましたので、掲載させていただきます。

今、私は父母の因縁によって人間に生まれることができた。だから（おかげで）、犬や猫などとは違った人間の境涯に生活をさせてもらっている。でも、人間としての一生を終えたら、この私は一体何処へ行くんだろうか。人間の一生を終えても、この私はそれによって私であることをやめることは出来ないという。

今、我が家に飼っている犬も、この世では犬の姿をしているが、犬の一生を終えたら、また生死の流転をくり返すのであろうか。犬を飼っている、私は犬の正体を知らない。

便所のセツチン虫だって、今生では汚いところに棲んでいるが、この世を終えたら、今度は何処へ行って、

どんな姿に身を変えながら生死流転の迷いを続けるのだろうか。また、その正体を知らない。

今生をこのままに終わってしまえば、私もまた、犬やセツチン虫と同じように、生死の流転をめぐり、未来永劫に渡って出離の縁があることは無いという。

私、私と言ってるこの「私」は、人間に生まれてくる前は、何処で、どうしていたのだろうか。その「私」は、何のために人間に生まれたのだろうか。私は今、「私」の正体も知らず、また人間に生まれてきたこと、人間であることの目的も忘れてしまっている。

そんな私に仏さまは、「それは、無始より迷い続けてきた『汝自身(私)』を、人間に生まれて度する(救う)ためである」と教えられる。なぜな

ら、犬や猫は仏さまの教えを聞くことは出来ないけれども、人間に生まれれば、仏さまの言葉を聞くことが出来る身をいただくからであると。だから、遇々人間に生まれ合わすことの出来た今生において、仏さまの教えを聞き、阿弥陀仏の本願の大悲に出遇って、無始より迷い続けてきたこの身の救いを得ることこそ人生の一大事であると、人生の目的を教えてくださいるのである。

また、親鸞聖人も、人間に生まれたことの意味は、「弥陀の本願海を聞かんがためなり」と教えられる。

もし、人間に生まれても仏さまの教えに遇わず、人間の欲望のままに一生を過ごせば、たとえこの世でいい思いをしても、この「私」はまた未来永劫に苦悩の生死を流転し続けなければならないだろう。